

## 巻頭

# 次世代へ つなぐ 平和への思い

## 青少年ピースフォーラム に中学生3人を派遣

市では、平成元年に平和都市宣言を行いました。そして、平和事業の一環として、中学生を被爆地（長崎市）に派遣する事業を平成16年度から行っています。

今年度の派遣について中学校から参加者を募集した結果、澤田圭世さん・大脇幸也さん（西中学校3年）・尾関慶祐さん（東中学校3年）の青少年ピースフォーラムへの派遣が決定。全国から集まった約300人の青少年と交流を深めるとともに、平和への思いを新たにしました。

## 青少年ピースフォーラム

原子爆弾によって大きな被害を受けた長崎市が、戦争の悲惨さと原爆の恐ろしさ、平和の尊さについて、次世代を担う青少年に伝えるために平成5年から毎年開催しており、今年で17回目になります。

8月8日、9日の2日間、被爆体験者の講演や、爆心地付近の被爆建造物見学、9日の平和祈念式典に参列するなどして、原爆による被害の実態を自分たちの目で見て肌で感じ、原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学びました。

## ■平和記念像

上空を指す右手は原爆の脅威、水平に伸びた左手は世界の平和、軽く閉じられたまぶたは原爆犠牲者の冥福を祈っているといわれています。

## 原爆犠牲者

## 「平和学習で学んだこと」

Report 01



西中学校3年  
澤田圭世  
Sawada Keisei

8月8日、9日の2日間、長崎の青少年ピースフォーラムというイベントに参加しました。このイベントでは、全国から約300人もの人々が集まり、長崎に原子爆弾が投下されたことなど、戦争と平和について、理解を深めることができました。

このイベントに参加して一番印象に残ったことは、一日目にフィールドワークという体験を行い、そこで長崎市の被爆当時の地層を見たことです。その地層には、器の破片やガレキなど、さまざまな物が埋まっています。そんな地層を見ると、なぜか被爆当時の苦しい顔をした人の顔に見えてきました。それを見て、本当に怖くなりました。また、戦争、そして核兵器の恐ろしさを深く感じる事ができました。

青少年ピースフォーラムを通して、平和についてじっくりと考えることができました。今後世の中から核兵器が無くなることを、強く願っています。